

ROAD

発行 〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

上智大学教育学事務室内

上智大学教育学科同窓会

TEL (03) 3238-3650 FAX (03) 3238-3980

編集責任者：教育学科同窓会会長 佐々木正文

上智大学教育学科同窓会会報

19年度講演会・総会を11月3日に開催

「政界をばっさり斬ります！ - 記者生活25年のOBが明かす裏事情」

山田恵資さん(時事通信解説委員)を迎えて



同窓会の「秋」がやってきました。同窓生を講師にお招きする講演会、そしてその後の和やかな懇親会。教育学科らしさを大切にしながら開催してきましたが、今年の講演会・総会・懇親会は十一月三日(土)に行ないます。ソフィア祭当日の開催です。四谷のキャンパスを訪ねるのに、さらに楽しみが加わることと思います。

タイムリーな講演会

講演会は午後一時半に始まります。講師は山田恵資さん(昭和57年卒)にお願いしました。現在予定されている演題は、「政界をばっさり斬ります！」。通信社の記者生活を二十五年送ってきた山田さんが、教育学科

ソフィア祭当日！ 午後一時半に十一号館・405教室

関係者へののみ明かす政界の裏事情。実に興味深いお話をお聞きすることができるのは間違いありません。

山田 恵資

(やまだ・けいすけ)さん

【略歴】

兵庫県宝塚市生まれ。49歳。

一九七七年に上智大学文学部教育学科に入学。八二年春に卒業し、時事通信社に入社。福岡、大阪勤務を経て、九一年五月に政治部へ。自民党、公明党や細川政権などを担当。九七年から二〇〇一年まで米国・ワシントン支局に赴任。帰国後は政治部に復帰し、小泉首相の初の北朝鮮訪問に同行。〇二年から政治部デスクを務め、今年四月から政治担当の解説委員。政治に関して月刊誌への執筆、政局に関する講演をしているほか、TBSラジオの情報番組にコメントーターとして出演することもある。政治のほか、社会・教育問題やスポーツ、車、「関西のお笑い」などに一言あり。家族は妻、長女(23歳)、二女(19歳)

十一号館での開催

今年の同窓会に足を運ばれる皆さんにご注意いただきたいことがあります。それは会場が例年と異なり、大学の十一号館ということですが、中央図書館の奥、ニューオータニ二側の建物になります。

山田さんの講演会は午後一時半から、405教室で行ないます。総会も引き続きこの教室で開催します。

午後三時半からの懇親会は、会場を十一号館7階の第3会議室に移して行ないます。こちらでは、世代を超えた同窓生の親睦、情報交換、先生方との歓談などでお過ごしください。皆様の多数のご参加をお待ちしています。終了時刻は午後五時半を予定しています。

懇親会費は三千円です。当日受付でお支払い下さい。現役学生は参加費無料です。

会場準備の都合上、出席者は同封の「用紙」をご利用いただくか、またはメールでご連絡下さい。

平成 18 年度講演会

Open the Door

—森明美さん（昭和 59 年卒）の元気の出るお話—

昨年十月二十八日、平成十八年度講演会・総会・懇親会がソフィアンズクラブで開催されました。十五年度からお世話になってきたクラブでの、最後の開催となりました。

講演会の講師には森明美さん（昭和 59 年卒）をお迎えして楽しいお話を伺うことが出来ました。講師紹介を務めた金井芳枝さん（昭和 50 年卒）による当日の報告をお届けします。

講演会の演題は「Open the Door」。森さんがこれまで、人生のドアをどのように開いてこられたかをお話くださいました。

「この大空に翼を広げ飛んでゆきたいよ」森さんの大きな歌声からお話は始まりました。人は色々な場面でコミュニケーションの扉を閉ざしてしまっている。この日の歌はその扉を開けるために歌われたとのこと。狙いはピタリとあたり、聴衆は始めから森さんのお話に引き込まれました。その内容を簡単にご紹介します。



同窓生に向かい熱心に話される森さん

岡山出身、高校時代は「ネクラな優等生」。東京での学生生活は劣等感を繕いながらの暮らしでした。そして岡山から東京へのドアを開け、自分探しのドアを開け、人間とは人生とは、と考え始めた時期でした。自分

探しのドアを開けたのは良いけれど、何をしたら良いかわからない。三月の卒業間近にやっと就職が決まりました。偶然キャンセルがあつて採用が決まったようです。

外資系の会社で、外国人のお客様との会話が良く出来ず、英語コンプレックスから会話を学ぶことを決意、会話学校に通い始めました。そこはドラマを通じて会話を学ぶ教室。参加しているうちに英語と同時に、お芝居に興味をわきおもしろくなりました。ブロードウェイミュージカルのオーディションを受け、その経験を通してお芝居で人を感動させられたら・・・と思い始めました。同時に海外へ行って見たい、旅行ではなく生活に触れてみたいと思うようになりました。

二十六才で渡米。インターシップ制度で、日本語や文化を紹介する仕事でした。希望する任地として演劇に心惹かれていたもので、本場の演劇に触れたという気持ちもあり、ニューヨーク市に丸をしましたが、日本を知らない小さな街に送られることが多く、期待はしていませんでした。実際オハイオの小

さな町に決まっていたのですが、先方の事情で急にキャンセル、変わりにニューヨークの公立高校で日本語クラスのアシスタントという話が舞い込み、ラッキーでした。ラッキーだなと思いはじめるとラッキーがやってくる。就職がきまった時もラッキー、アメリカでの任地もラッキーでした。

一九八七年四月に渡米、初めてのホームステイ先はユダヤ人の家庭。一年間に八箇所家庭に迎えてもらい、色々な人種、家庭を経験し、どこでも暖かくオープンに受け入れてもらいました。アメリカ横断旅行では、自然の雄大さを実感。このような経験を通じて、自分自身がオープンにならなければ、と思いはじめました。秋からは週末に演劇学校にも通い、社会人になっても夢を捨てずに努力すること、良いことも悪いことも受け入れてエンジョイすることを学びました。

一年のアメリカでの生活を終えて帰国、同級生の畠祐美子氏とプロデュースカンパニー「リ・ボンregon」を立ち上げ畠氏オリジナルの脚本を企画・製作。又ラジオのレポーターと

して、世界各国での仕事をしてきました。外国へのドア、文化芸術へのドアが、二十代からの自分探しのキーワードだったようです。

三十代の後半、フランス人のヴァイオリニストと出会い、結婚。彼はポジティブシンキング持ち主。ちよつとした勇氣でコミュニケーションが広がって世界が全く違ったものになると実感する毎日。国際結婚はたくさんバリアを含んでいますが、言葉、食べ物、習慣の違いを楽しみながら受け入れることによって世界観が広がっていくし、全く別の環境で育ってきたのに同じ価値観を持てる事に嬉しさを感じる日々です。

現在はクラシックのコンサートの企画制作・司会を手がけ、パートナーと共に人に感動を与えたいと思っています。共通の目標は、大きく芸術文化を捉えてあらゆるジャンルの芸術を通して、普段はあまり芸術と縁がないと思っている人に何かを感じてもらいたいと思っています。世の中のバランスを保っていくのに、芸術の持つエネルギー・オーラが不可欠だと考えるからです。

78-14 クラス銀祝願末記

本田 彰宏 (昭和57年卒)

今年が卒業二十五年の銀祝という意識はかなり前からあったが、我がクラスの終身幹事長のK君、宴会部長のI君が着々と準備を進めていて通知が来たら参加の返事を出せばいいだろうと思っていた。ところが彼らは仕事が多忙でそれどころではないと風の便りに伝わってきた。

何とかしようとK女史、O君から相談メールが届いたのが四月十日。その時の私の反応は今年銀祝だけどいつだっけと言ったお気楽な状態だった。えっ！五月二十七日。あと一ヶ月半じゃん。こりゃあクラスの大ピンチだ。十年前の銅祝では念入りに準備を行い、六十名のうち実に四分の三が集まり久しぶりの再会を喜びあった。

一度きりの銀祝、懐かしい多くの仲間と会いたいな。限られた日数で何が出来るだろうか。それからほぼ毎日のようにK女史、O君とメールでやりとりをし、案を練った。K君メンテのクラス名簿のおかげでほぼ全員に案内を出すことが出来た。並行してメー

リングリスト(ML)をO君が立ち上げ、参加を呼びかけながら盛り上げていった。

MLではダイエツトやメタバなどの健康問題、親や子どもなどの家庭のことで盛り上がり、勢いそのまま当日を迎えたので、会ってもひさしぶりという感じがせず、自然と輪が広がっていった。MLはそのまま現在に至るまで盛り上がりっぱなしである。

当日は、どこか都合の良い時間帯のイベントに参加出来るよう公的な式典と祝賀パーティー以外にクラス独自の茶話会、夜の懇親会を考えた。K女史からはお世話になった先生へ招待状兼二十五年度のラブレターを出してもらった。また、お忙しい高

祖理事長には頭脳派N君から連絡を密に取っていた。受付や会計も何人かにお願した。事前打ち合わせや場所の下見と称しての飲み会が集まる機会は二回しか無かったがやれることはやったかなという達成感を感じた。当日は文字どおりの五月晴れ。クラスの六割にあたる

三十六名が聖地四谷に集い、どこかのイベントに参加した。

懐かしい尾形先生、越前先生にもお越しいただいた。お二人とも私たちの事を良く覚えてくださっていて感激した。多忙な高祖理事長は今や教育学科の高祖先生ではなく上智の高祖大明神となられ、我々だけで独占することが出来なく一抹の寂しさを感じたが、夜の懇親会に顔を見せ話をしていただき大いに盛り上がった。時間が経つのはあまりにも早く、再会を期して別れたが、夜のしんみち、裏通りに何人かが繰り出して行った。

自分の周りに良き友、良き先生が存在を感じ、つくづく上智で良かった、それも78-14クラスであつた。良かったと再認識した一日でも



高祖先生、尾形先生をお囲みして

二〇〇七年度学位授与式に出席して

伊藤 奈美予 (昭和52年卒)

金井芳枝さん(昭和50年卒)と二人で教育学科同窓会を代表して、学位授与式に出席しました。卒業生の皆様にお祝いの品をお配りして会費納入のご案内をして来ました。本年度卒業の六十五名の学部生と、五名の院

方に会費を納入していただきました。有難うございました。今年度のヘルパー長は富久尾崇さんで、この学年の連絡係を快く引き受けてくれました。卒業生の皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

の華やかさに、こちらの人数が少なかつたせいもあつて、ちょっと圧倒されてしまいました、いつもながらの和やかなお式でした。



9-353 教室で記念写真です

高祖先生が「還暦」を迎えられました！

高祖敏明先生が「還暦」を迎えられました。先生は一九四七年一月一日、広島県佐伯郡大柁町のお生まれです。

中学・高校を広島学院で過ごし、その後上智大学に進学、一九七一年に哲学科を卒業された後、大学院で教育学を学ばれました。

七六年に教育学科助手になられてから助教、教授に進まれ、文学部長を経て九九年から上智学院理事長に就任されています。先生は現在特に二〇一三年の大学創立一〇〇周年に向け、先頭に立ってご尽力されています。御身体はくれぐれも大事になさっていただきたいと思います。

昨年の十月二十八日、教育学科と学科同窓会共催による初めての「教育学科・OBによるキャリアガイダンス」が開催され、同窓会からは佐々木会長をはじめ、長尾和洋さん（昭和61年卒）、高橋秀和さん（平成14年卒）、金沢雄太さん（平成18年卒）の四名が講師として学部生へアドバイスを送りました。

今年七月十四日に教育学科の就職ガイダンスが開かれ、同窓生三名が聴講しました。その様子を渡邊智子さん（昭和60年卒）が報告します。

教育学科就職ガイダンス

内定が決まった4年生と大勢の3年生が集まった現役学科生の就職ガイダンスを見学する機会を得た。

最初に、かつてヘルパー長を務めた山形方人さんが実体験に基づき3年の春から始まる就職活動の流れを紹介。神宮望美さんと稲垣紘也さんが「自己分析・SPIの必要性」「学生生活で役立つこと」をテーマに、自分自身を知ることや、学生生活で一つのことを一生懸命やることの大切さを伝えた。

続いてキャリアアカウンセラーの鈴木美伸氏が採用担当者の視点から就職活動の心得を伝授。先の4年生の話を受けとめ「担当者は動機や意欲よりも何を頑張ったかという客観的行動を尋ねる」「大切なのは自分を知ることより、自分を企業に売り込

むための情報を整理すること」といった実践的アドバイスを提示した。後半は学生に人気の航空・マスコミ内定者や、進学・教員・企業の間で迷った人、さらに社会人3年目の先輩が登場。質問もたくさん出て非常に活発な会になった。

さて二十年前の卒業生が見て感じたのは、キャリア教育という新しい分野がとても元気で興味深いということ。哲学や社会学、心理学のエッセンスが入り交じり、「これでもか」とでも言うように人間教育の深奥を掘り進んでいくような感覚を得た。鈴木講師が最後に言われたように、これは是非教育学科がリードしていききたい分野だし、そんな真摯な自己教育を経てきた卒業生たちに同窓会で会えるのが何より楽しみだ。

上智大学教育学科同窓会 会計報告(案)

(2006年6月1日から2007年5月31日まで)

項目	収入	支出
1 前年度より繰越金	3,404,601	
2 終身会費(16名分)	160,000	
3 同窓会参加費(43名分)	140,000	
4 利息	865	
収入合計(1)	3,705,466	
1 郵送料		144,900
2 ROAD印刷代		97,650
3 ソフィア'クラブ'使用料		60,000
4 同窓会飲食費		75,704
5 講師へのお礼		6,050
6 会場お花代		2,850
7 写真代		15,161
8 慶弔費		36,228
9 文具代		4,557
10 振込手数料		300
11 会議費		1,131
12 ネット使用料		30,000
13 カード年会費		1,312
支出合計(2)		475,843

収入合計(1) - 支出合計(2) = 残金 3,229,623円

上記の通り、会計報告いたします。尚、残金3,229,623円は2007年度6月以降の同窓会費に引き継ぎます。

2007年8月4日

上智大学教育学科同窓会

会計担当 伊藤 奈美予

監査の結果、上記の通り相違ないことを認めます。

2007年8月4日

上智大学教育学科同窓会

会計監査 高橋 秀和

教育学科同窓会ホームページ

<http://www.sophia-education-alumni.jp>

清水義弘先生御逝去



在りし日の清水先生

一月七日、清水義弘先生がお亡くなりになりました。享年八十九歳でした。先生は七八年に東大を定年退官後上智に移られ、教育学科で教育社会学を十年間ご担当、ご指導を受けたゼミ生は百名を越えています。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

会計担当よりお願い

昨年の総会で会計監査を置くことと高橋秀和さん（平成14年卒）の就任が認められました。右はその上での会計報告案です。総会でご意見を頂戴します。

本会の運営資金である終身会費の納入にご協力くださいました皆様に厚く御礼申し上げます。未納の方は一万円を左記口座までお願いします。

郵便振替

〇〇一九〇一六一七〇三一一

三井住友銀行四谷駅前支店

普通 六七五五一一〇七

「上智大学教育学科同窓会」宛

新井茂光さん（昭和52年卒）死去
八月九日に亡くなられました。ご本人の遺志による「お別れの会」が八月十九日に宇都宮で開かれました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

第十三号をお届けします。発送作業をお手伝いくださいました皆様に感謝申し上げます。毎年残念なのが「転居先不明」で戻ってくる封筒の多さです。住所変更の連絡をぜひお願いいたします。（栗）